

## 症例レポート(ID ) 事例目 記載者

1. 年齢 歳 2. 妊娠・分娩歴 経妊 経産 3. 在胎週数 週 日
4. 既往歴 5. 妊娠合併症
6. 分娩所要時間 時間 分(第一期 時間 分、第二期 時間 分、第三期 時間 分)
7. 母体酸素投与 有 無 8. 分娩時処置 無 有(クリステレル 吸引 鉗子)
9. 出血総量 g(分娩3期まで g、縫合時 g、1 時間値 g、2 時間値 g)
10. 新生児情報 体重 g AP 点(減点 )/ 点(減点 )

**\* 該当しない項目は該当なしと記載する。**

妊娠期・入院時 チェックリストの内容に沿って記載すること。

入院時診断:

1. 入院時診察から、入院の可否、分娩経過予測を適切に判断(入院時の助産診断)について

入院時 CTG 判読: 基細変動 + - 徐脈 + - ベースライン bpm レベル

分娩所要時間予測:

2. 今後の予測:

3. 入院時診断から分娩経過を考慮した助産計画立案

1で判断・予測にあった助産介入方法、観察ポイントにそって記載

分娩第一期 チェックリストの内容に沿って記載すること。

4. CTG を判読し、レベル判別に応じた報告、準備について \* 医師と必ず振り返り(必須)

5. 分娩進行状況や産婦の状態に合わせた分娩進行援助の選択と実施について。

VS、栄養、排泄、体位、呼吸法、精神状態などの実施した結果を記載。医師との振り返りも記載すること。

6. 家族の状況に合わせた支援の実施について。(経過についての説明や状況に応じた家族介入など)

分娩第二期、第三期 チェックリストに沿って記載すること。

7. CTG を判読し、レベルに応じた報告、準備、援助について \* 医師と必ず振り返り(必須)

子宮口全開大時:レベル I II III

怒責開始時:レベル I II III

破水時:レベル I II III

8. 分娩進行状況や産婦の状態に合わせた分娩進行援助の選択と実施について。

有効陣痛の判断:

怒責開始の根拠:

9. 家族の状況に合わせた支援・実施について。

産婦への介入方法:

呼吸法、補助動作、説明、精神的介入など

10. 第二期の進行を促進させる援助について。(医師への報告やカンファレンス結果を含めて記載)

陣痛促進:

体位:

栄養・呼吸法:

11. 新生児の出生児状態に合わせて、新生児蘇生法等の実施について(ルーチンケア)

間接介助者への指示や介入方法の問題点についての指示、アドバイスができていたかを含めて記載

12. 胎盤剥離徴候を認めない場合の適切な対応について(問題なく胎盤娩出時は不要)

分娩第四期 チェックリストの内容に沿って記載すること。

13. 第四期の異常の有無を査定し、適切な対応について。

子宮収縮・出血量に応じた看護・介入：

14. 創部の確認と縫合時の医師への援助：

1 時間値、2 時間値の異常の判断：

初回歩行時の判断：

産後に影響すると思われる今後のプラン(計画立案も含めて記載)

医師のコメント

分娩介助日 /

分娩介助後医師とカンファレンス実施し、1 週間以内に提出